

平成31年2月6日(水)

佐藤一斎「言志晩録」の一節

以前紹介した、江戸時代の思想家で西郷隆盛などにも影響を与えた佐藤一斎の「言志四録」の中の「言志晩録」の一節にこんな文章があります。

怨みに遠ざかるの道は、一箇の恕の字にして、
争いを息むるの道は、一箇の讓の字なり。

人から怨まれないようにする方法は、「恕」の一字、どんな時でも、相手の立場になって考える思いやりとやさしさのことです。

ヒトとの争いを止める方法は、「讓」の一字、自分が一步引いて相手に譲るということです。

いつも人に対して思いやりと譲る心を持って接することができれば、恨みや争いは決して起きないということを語っています。

この字を名前にしている生徒もいますが、なんとまあ素晴らしい字をもらったことなのでしょう。名前には親の心が込められております。もう一度自分の名前のその字のありようと自分の在り方を考えてみてはいかがでしょうか。

佐藤一斎(さとう いっさい/1772年11月14日-1859年10月19日)は、美濃国岩村藩出身の儒学者、教育者。江戸幕府直轄の教学機関・施設「昌平坂学問所(しょうへいざかがくもんじょ)」の塾長として多くの門弟の指導に当たった人物であり、一斎から育った弟子には幕末に活躍した人材たちが多く、佐久間象山、山田方谷、横井小楠、渡辺華山などが顔を並べている。また、随想録「言志四録(げんししらく)」の著者としても有名であり、指導者のための指針の書とされる同書は西郷隆盛の愛読書であった他、今日まで長く読み継がれている名著として知られています

